

## 神戸市図書館情報ネットワークの現状と課題

神戸市立中央図書館 長谷川 雄彦

### 1. システムの概要

神戸市図書館情報ネットワークは、神戸市の図書館組織により共同で開発・運用を行っているシステム。現在の参加館は、神戸市外国語大学図書館、神戸市看護大学図書館、神戸市立図書館の3組織の図書館です。

### 2. システム開発の経緯

#### (1) システム開発の目的

1. 神戸市の保有する図書館情報資源の共有により情報作成の省力化を図る。また、個別の図書館に問い合わせることなく資料の検索を可能にする。
2. 一元的にシステムを開発・維持することにより経費の節減を図る。
3. 学術情報センター（現・国立情報学研究所）と接続することにより、国内・海外の図書館ネットワークとの接続が可能となる。

#### (2) システム開発の経過

- |       |  |
|-------|--|
| 平成4年度 | ・外国語大学図書館での業務電算化の検討<br>・ファッション美術館開設準備のための資料整理の検討<br>・中央図書館でリース期間満了によるシステム更新の検討<br>神戸市図書館情報ネットワークシステム構想 |
| 平成5年度 | ・神戸市図書館情報ネットワーク研究会の発足<br>異館種ネットワークの実現、汎用機からクライアント・サーバへの移行<br>・参加各館によるネットワークシステム構築の合意                   |
| 平成6年度 | ・機種等選定委員会開催<br>・業者選定<br>・閲覧、検索、目録の3部門に分け、システム開発  |
| 平成7年度 | ・阪神・淡路大震災により更新時期の変更（4月から9月へ）<br>4月 神戸市看護大学設立準備室が加入<br>9月 神戸市図書館情報ネットワークシステム稼動                          |
| 平成8年度 | 4月 神戸市看護大学図書館 開館   |
| 平成9年度 | 4月 神戸ファッション美術館 開館  |

平成 10 年度	7 月	第 1 回神戸市図書館情報ネットワーク更新検討会議開催
	3 月	「神戸市図書館情報ネットワークシステム要求仕様書 (案)」策定
平成 11 年度	5 月	各部門で要求仕様書確定作業開始
	7 月	次期システム目録 DB に関するプロトタイプングを開始 DBMS 等の選定
	12 月	業者選定、開発担当 SE 選定作業開始
	1 月	DB 系、CAT-P 系開発作業開始
	2 月	ハードウェアテスト開始 サーバにも PC/AT 互換機が適用可能であることを実証
平成 12 年度	6 月	閲覧系開発作業開始
	8 月	目録系開発作業開始
	9 月	OPAC、検索系開発作業開始
	11 月	環境構築開始、結合テスト
	12 月	総合テスト
	1 月	神戸市図書館情報ネットワーク新システム稼動
平成 13 年度	4 月	追加開発項目の検討
平成 14 年度	5 月	外国語大学において館内 OPAC に予約機能を追加
	10 月	看護大学でも館内 OPAC からの予約を開始
	3 月	ファッション美術館が脱退
平成 15 年度	4 月	中央図書館が IC 式 BDS の設置にともない、IC システム との連携を検討開始
	7 月	学校図書館への書誌データ提供の検討開始

### (3) システム開発の手法

#### 神戸市主体の開発支援型

業者に開発を委託するのではなく、神戸市が主体となって開発。

業者は技術支援として SE を派遣し、神戸市側担当者と共同開発。

ソースコードを含むすべてのプログラムは神戸市が所有。継続的にシステムの開発およびバージョンアップが可能。

### 3. システムの内容

#### (1) システムの特長

- ・ NACSIS 新 CAT への対応

国立情報学研究所のシステムに対応するため、神戸市のシステム内にも CAT-P サーバを構築し、目録関連のプロトコルを CAT-P を拡張して利用。

- ・ PC-UNIX の全面採用

サーバ、クライアントともに PC-UNIX(Linux)を全面採用し、すべてのハードウェアが PC/AT 互換機で構成され、ハードウェアの経費を大幅に削減することができた。

- ・ DBMS の統一

前システムでは、閲覧業務系が Sybase を、目録業務系が Objectivity を利用していたが、両者の整合性を取りながらシステムを構築・運用することが難しかったので、両業務とも Oracle を DBMS として採用した。

目録データベースの構造の単純化とともに、レスポンスが向上した。

- ・ スクリプト言語による開発

開発言語に ruby を利用。開発の効率化を図った。

#### (2) 閲覧業務システム

- ・ 中央図書館の汎用機時代からのオペレーションを参考にしながら開発することで、レスポンスを高めている。検索では、キーバインドにより予約や詳細表示など速く行えるように工夫している。

#### (3) 目録業務システム

- ・ 館内に CAT-P サーバを構築することにより、1つの目録クライアントから神戸市の目録サーバも NACSIS-CAT のサーバもオペレートが可能になった。

#### (4) 利用者蔵書検索システム (OPAC、Web-OPAC)

- ・ 館内 OPAC

前システムでも蔵書検索が可能だったが、機能的にも不十分だった。神戸市立図書館の全館オンラインの完成により、全図書館の蔵書を横断的に検索できるようになった。

詳細表示では、書誌情報だけでなく表紙の画像・帯の情報や著者紹介や、資料のロケーション、貸出状況の表示が可能。

外国語大学と看護大学に OPAC からの予約機能が追加された。

- ・ Web-OPAC

館内 OPAC と同じシステムを利用することにより、開発コストと期間を削減した。貸出状況の表示は、前日業務終了時点であること以外は館内 OPAC と同じ利用ができる。

また、携帯電話からの検索も可能にし、いつでもどこでも検索ができる。

#### 4. システムの利用状況

##### (1) OPAC の利用状況

	中央図書館	外国語大学	看護大学	Web-OPAC
平成 13 年度	1,537,327	152,707	35,659	559,852
平成 14 年度	1,743,203	188,312	43,075	1,065,227
平成 15 年度	1,053,682	88,850	24,295	757,772

平成 15 年度は上半期（4～9 月）の数値

##### (2) 外国語大学図書館との相互貸借の状況

	借入	貸出（冊）
平成 14 年度	150 冊	127 冊
平成 15 年度	246 冊	75 冊

平成 15 年度は上半期（4～9 月）の数値

#### 5. 今後の課題と展望

- ・他機関との連携
  
- ・利用者サービスの向上